

# 瀬戸際の地域医療

□ 下

「かつては黙っていても大学に医師が集まってきた。もはやそういう時代ではない」

千葉大医学部付属病院の田辺政裕教授はそう漏らす。県内で唯一医学部を持ち、医師を供給してきた千葉大。その大病院も地域病院と同じく、医師不足と無縁ではなくなった。

## 入局者が激減

二〇〇三年度まで同大付属病院医局への入局者は毎年百五十人ほどいた。しかし〇四年度に新医師臨床研修制度が始まると約六十人に激減。新制度で若手医師は全国から自由に研修病院を選ぶことができるようになったためだ。

「大病院は症例も専門的で、若手には手が出せないものが多い（田辺教授）。そのため多くの症例を満遍なく見ることができ、大病院を選ぶ若手が増えている。千葉は近くに東京の市中病院や大病院などが多いことも影響している。」

## 大学病院も医師不足



若手医師の確保に直面する千葉大付属病院（千葉市）

余裕はなくなってきた。授は話す。大学に頼れない今、病院が医師を確保するには何が必要なのか。自治体病院の現状に詳しい伊関友伸・城西大准教授は「専門医の資格が取れる科常勤医は〇七年四月時点

余剰はなくなってきた。授は話す。大学に頼れない今、病院が医師を確保するには何が必要なのか。自治体病院の現状に詳しい伊関友伸・城西大准教授は「専門医の資格が取れる科常勤医は〇七年四月時点

## 県も支援策

住民の意識も高い。地元自治体非営利活動法人（NPO法人）は「医師育成サポーター制度」を立ち上げ、患者から見た意思疎通が進み、現在五人が利用している。医師獲得競争に打ち勝つには、病院だけではなく、自治体、地域住民のバックアップが欠かせない。県をあげて医師確保に取り組むことができるか。残された時間はそう多くない。

## 地域が連携、育成にも力

に分かれる。千葉大では前期研修を終えた医師が後期研修になれば戻ると考えていたが、若手医師は戻ってこなかった。もはや地域に十分な数の医師を派遣する

この連載は赤塚佳彦が担当しました。

# 千葉

千葉支局 043-227-4346

